

美術史学会 美術館博物館委員会 東西合同シンポジウム

「美術館・博物館教育のこれまで、これから」

- 日時** 2023年4月23日(日) 13:00～17:00
- 会場** 会場(学習院大学北2号棟10階)・Zoomによるハイフレックス方式。
- 定員** 会場30名 オンライン(Zoom)300名 ※事前申込制、先着順。
- 参加費** 無料。学会員以外の方も聴講可。
- 主催** 美術史学会(美術館博物館委員会 担当:美術史学会東支部運営委員・皿井舞、同東支部委嘱委員・亀井愛)
- 後援** 全国美術館会議、日本博物館協会、文化資源学会、日本アートマネジメント学会(予定)
- 趣旨** 昨年の第208回通常国会において、博物館法の一部を改正する法律が成立しました。博物館法の制定から約70年が経過し、「博物館登録制度」や「学芸員制度」などの見直しが行われているなかで、美術館・博物館を取り巻く状況は刻々と変化しています。
- 博物館・美術館の教育活動は、人々に豊かな鑑賞体験を提供し、作品に接する楽しさを伝えてきました。こうした鑑賞体験を深め、学びの扉を開く重要性は、博物館・美術館だけではなく、大学などの教育機関であっても基本的には変わりないはずです。本シンポジウムは、美術館・博物館に求められる役割が多様化・高度化する現在、今後の美術館・博物館教育のあり方を考える機会としたいと思います。

プログラム

- 13:00～13:05 開会の挨拶 長岡 龍作(美術史学会東支部代表委員/東北大学)
- 13:05～13:10 趣旨説明 皿井 舞(同東支部美術館博物館委員/学習院大学)
- 13:10～14:00 基調講演 五月女 賢司(大阪国際大学・准教授)
「ミュージアム・エデュケーション:日本での歴史と現状」
- 14:00～14:10 休憩
- 14:10～14:35 事例発表1 青木 加苗(和歌山県立近代美術館・主査学芸員)
「ミュージアムで人は何を学ぶのか
—博物館法とICOM規約改正から考える」
- 14:35～14:55 事例発表2 藤田 千織(文化財活用センター・企画担当課長)
「ミュージアムを「他人事」から「自分事」に
～文化財に親しむためのさまざまな取組み～」
- 14:55～15:15 事例発表3 青山 由貴枝(長野県立美術館・学芸専門員)

「だれにでも開かれた美術館 長野県立美術館

インクルーシブ・プロジェクト」

15:15～15:35 事例発表4 白木 栄世

(森美術館・アソシエイト・ラーニング・キュレーター)

「現代美術館は、世界を学ぶための教室になり得るか？」

15:35～15:55 事例発表5 一條 彰子

(国立アートリサーチセンター(仮称)設置準備室・
ラーニンググループリーダー)

※3月28日以降、国立アートリサーチセンター・ラーニンググループリーダー

「国立アートリサーチセンターが目指すもの」

15:55～16:10 休憩

16:10～16:55 質疑応答

16:55～17:00 閉会の挨拶

申し込み方法 (事前申込制・先着順)

下記 URL から参加申込フォームページへ移動し、必要事項をご記入のうえ、お申し込みください。申し込み先着順にて受付させていただきます。

<https://forms.gle/PVjoPNYfycETAxTL7>

※締め切りは4月16日(日)23:59

※お申込みいただいた方には、受信確認メールが自動送信されます。受信確認メールがない場合、入力されたメールアドレスに誤りがある可能性がありますので、迷惑フォルダをご確認のうえ、再度申し込みをお願いします。

※参加者には、4月20日(木)までに参加に必要な情報をお知らせいたします。

お問い合わせ 美術史学会東支部美術館博物館委員会 bihakusymposium@gmail.com